

未来への贈り物

今回の問題は、過去のものではありません。我々は第2次世界大戦の歴史認識をきちんと持たないといけません。それには「正」と「負」があり、それを両面から検証することで日本人は、今後の日本人たる所以が取り戻せるのだと実感しました。

訪米し、日系の方々とお話をして、現地に住んでみなければわからないご苦労や心配といった内容を聴きました。外側から見る日本は平和過ぎて私たちは「井の中の蛙」です。だからこそ今、遣るべきことを共に遣らねばなりません。



では、何をしていけばいいのでしょうか？私は、まず問題は2つあると思います。

まずは国内問題として、やはり「河野談話」の見直しでしょう。そして、もう一つは国外問題として、向こうに住んでおられる心ある方達と連携をとって、もっと「日本人」を理解してもらわなければなりません。これらを改革の軸にして運動することが先決です。

今回、私はグレンデール市にある日本庭園を見学してきました。郊外の公園に素晴らしい憩いのスペースあり、当初は茶室と聞いていたので小さいイメージでした。しかし、そこには想像と違って驚くほど立派な建物が建っていたのです。

これら、先人が残してくれた物を活用することが、新たな種子(主旨)になるのだと思いました。



半分が池の上にあり、とても立派な10帖程の茶室があります。



入口の看板には、「友情の庭、グレンデールの日本の茶室」とあります

たるもと丞史後援会

<http://www.tarumoto.com>

事務所：〒578-0905 東大阪市川田2-21-18

TEL：072-964-4649(ヨ・ロ・シ・ク)・FAX072-963-5832

ご意見やご要望が御座いましたらFAXまたはHPよりお問い合わせ下さい。



グレンデールレポート

2013.11.13~19

「たるもと丞史通信号外版」2013.12

韓国の従軍慰安婦像のことは、マスコミ報道を通して知っていたが、今年の春に東大阪市と姉妹都市であるグレンデール市に慰安婦像が建てられるという情報が入るまでは、実は身近にある大変大きな問題であるとは、私自身も認識していなかった。7月30日に慰安婦像が設置されたと聞き、私は、居た堪れない気持ちになりました。「すぐに抗議しなければ」という思いになり、単身でも訪米すると決意しました。今回の訪米は私自身も初めての体験ですので、正直なところ怖さもありましたが「行動を起こさねば」という思いの方が勝っていました。



LAの街並で右の山の向こう側にG市があります



TJNメンバーの方々と打ち合わせの風景

東大阪市とグレンデール市は、東大阪市になる前の枚岡市で昭和35年に姉妹都市締結されました。

それから半世紀以上の歴史の中で、お互いの交流はごく一部に限られ、まさに交流そのものが衰退していると言えるでしょう。

アメリカで行われている韓国系ロビー活動により、グレンデール市では慰安婦像が建ちましたが、それより以前に「慰安婦碑」が米国内で数箇所建てられております。ガーデングローブ市の私有地にある「碑」を見て愕然としました(右写真参照)。裸の女性に対して旭日旗を持った兵士が銃を突きつけている。平然とこのような侮辱的なPRが行われていることに怒りを覚えてなりません。何故、このようなことになったのでしょうか。

やはり、河野談話が足枷になっているのは言うまでもありません。

